

明石支部では、企画を募集しています。文化行事から臨床研究会まで、お気軽に事務局までご連絡ください。



今後の協会の方針を決めるため活発な討論が行われた

5月20日、県協会は第81回評議員会を開催した。支部からは、協会副理事長を務める吉岡巖支部長、理事を務める西山裕康支部長、池本恒彦、永本浩、辻一城各支部幹事と楯谷一成評議員が参加した。支部からの報告として発言を行った西山副支部長は、県立子ども病院のポータイ移転について「子供やその母親を集め危険に晒すこの計画には、震災の経験が全く生かされず、説得力のある移転理由もない。また、昨年8月のパブリックコメントにおいても、最も重要な移転先（ポータイランド）を公表せ

ず、説明責任も果たしていない。明石支部では3月に市の保険健康部部長らと懇談を行った。阪神淡路大震災の際に、ポータイは液状化で道路が使い物にならなかつたとのことで、現在も同様の懸念を表明していたが、県の事業でもあるため、口頭で意見を表明するという動きにとどまつた。現在、2012年度予算に設計費を盛り込んだ段階だが、各種広報を強化し、医療関係者や患者さんだけでなく、すべての県民を巻き込んだ運動とすれば移転はストップ可能であり、その成果を良き前例とする機会であると考える」と述べた。評議員会では特別講演としてノーベル物理学賞を受賞した益川敏英氏が「益川敏英が語る気骨の平和主義」と題して講演を行い、会員に加え市民ら300人が参加した。

「こども病院のポータイ移転は止められる」

県協会第81回評議員会

会員懇談会

実践的な内容に目からウロコ



講師の桂氏が全体監修にあたった「医院経営と雇用管理」に基づいて実践的な内容の講演が行われた。

支部は4月21日、西明石ホテルキャッスルプラザで会員懇談会「失敗しない採用のポイントと退職時のトラブル解決策」を開催。講師は桂芳務社会保険総合事務所長で月刊保団連・臨時増刊号「医院経営と雇用管理」の全体監修も務めている桂好志郎社会保険労務士、会員ら16人が参加した。桂氏は、採用募集時の広告やハローワークの求人票の内容から、面接時のテクニクまで実践的な工夫を明らかにした。また、最近の医療機関での労使トラブルの具体例と傾向を示し、普段から注意すべき点を明らかにした。参加した会員からは、「今年の春の採用で思うように人が集まらなかつた。もう少し桂氏の話を早く聞いていれば良かった」などの感想が寄せられた。

兵庫 庫医 協会



N o. 257

2012・5・25

投稿歓迎!

兵庫県保険医協会明石支部

支部長 吉岡 巖
神戸市中央区海岸通一丁目二番三十一号
神戸フコク生命海岸通ビル五階

TEL 078-3393-1802 (代)
FAX 078-3393-1802

☆協会ホームページ・明石支部→ <http://www.hhk.jp/sibu/akasi/akasi.htm> もぜひご覧ください。

第28回支部総会 記念講演詳録④

原発を知る・被ばくを知る

京都府保険医協会 飯田 哲夫 先生



最悪の過酷事故となった福島第一原発

第28回支部総会での記念企画「原発を知る・被ばくを知る」の講演録に加筆したものをシリーズ掲載。

【過酷事故の危険】

もう1つ、この原子炉の危険な特徴は、今度の事故もそうですけれども、地震発生などで発電を停めるために、制御棒をどんとめいっばい入れる。ところがそれまでに核分裂反応が起こり続けていたために、原子炉の中には放射性物質がいつぱい詰まっている。これは放っておいても勝手に崩壊して。次から次へ熱を出して、次の物質に変わっていくという非常に厄

介な性質を持っている。これが崩壊熱です。これが大変長い間続きます。もしもこれをちゃんと水で冷やさないで、どんどん温度が高くなって、最後には原子炉が溶けてしまう。今回の事故はこれが起こってしまったわけ。今回はウラン反応は自動的に止まりました。ところが、崩壊熱をちゃんと冷やすことができなかった。そして、原子炉に穴が開いて、放射性物質が、人の住む環境へ大量に

もれだしてしまつた。これが今回の事故、冷却水喪失事故と呼ばれるシビア・アクシデントです。そしてもう1つのシビア・アクシデントは、核反応を制御する制御棒がちゃんと働かないなどのために、一気に核連鎖反応が進んでしまい、水素爆発、水蒸気爆発、あるいは核爆発が起こってしまう。このタイプがチェルノブイリの事

故です。ちなみにスリーマイル事故は前者のタイプ。

【大小の事故】

いまシビア・アクシデントの話をしたんですけれども、実は事故は年がら年中起こっているんです。公表されたデータで見ますと、大小合わせてこの1年間で307件、中には燃料棒が壊れた、放射能が漏れてきた、制御棒が誤作動した、配管がすり減って穴が開いた、ひびがはいった、コントロールするためのデータを得るメータが壊れたなど、非常にきびしい事故を含めて、大小さまざまな事故が307件、1年間ほとんど毎日起こっている。

【原発労働者の被曝】

そして、このことでもう1つ大事なことが、忘れてはならないことは、こういう事故の点検はその多くが放射線管理区域で、人の手を使得て行われる。当然、被曝するわけです。それから、

それを修理するのも、事故によれば非常に高い放射線が漏れているところで作業せざるをえない。いくら防護服を着たとしても被曝します。

さらに、原子炉というのは定期点検をする必要があるわけですけど、メータだけでも放線管理区域に入らざるをえない。こうして小さなさまざまな事故、日常運転でも、絶えず被曝という現象が起こる。そしてもちろん東電の社長は、こんなところに入りません。東電の社員もほとんど人らしい。大抵は下請けの、あるいは孫請けの人たちがこういう作業に携わっている。

電気で豊かに、もっと豊かな生活がしたいのでもっと電気をというとき、原子力発電からもらっている電気は人を傷つけた電気です。非人間的な電気を私達は使っているということ、忘れてはならないと思います。



慶應義塾大学医学部内視鏡センター助教 細江 直樹先生

兵庫県保険医協会第44回総会にご参加ください

◇ 6月17日(日)13時30分~/チサンホテル神戸

(「高速神戸駅」直結 徒歩1分)

・総会議事 13時30分～

2011年度会務報告、12年度活動方針案・予算案ほか

・記念講演 15時30分～

カプセル内視鏡の有用性と今後の展望

小腸用カプセル内視鏡(CE: Capsule Endoscopy)は、2000年にIddanらによってNature誌上で発表され世界中で幅広く使用されている。CEによりこれまで観察することができなかった小腸が観察でき、様々な小腸病変が明らかとなってきた。CE使用数は100万個を超えたともいわれ、小腸のみならず新たなカプセルとして大腸用、食道用のカプセル内視鏡が欧米では使用されている。本邦においては2007年6月より原因不明消化管出血(OGIB: Obscure Gastrointestinal Bleeding)を適応とし、ギブニメーシング社より PillCam SB[®]、2008年11月より国産としては初となるオリンパス社製カプセル内視鏡(Endocapsule[®])が発売された。OGIBに対するCEの有用性および、今後の展望として他臓器用カプセル内視鏡、CE機器開発の動向について発表する。

【細江 記】

プロフィール 【ほそえ なおき】

1999年慶應義塾大学医学部卒、慶應義塾大学医学部内科学教室、東京都稲城市立病院内科、大田原赤十字病院内科、慶應義塾大学医学部消化器内科学教室、東京都済生会中央病院内科を経て、2007年慶應義塾大学医学部消化器内科助教、2010年から慶應義塾大学医学部内視鏡センター助教。

◇懇親会 17時30分～ (参加費不要) チサンホテル神戸 3F 六甲の間
兵庫県保険医協会 TEL078-393-1801 FAX 078-393-1802

兵庫県保険医協会

- 第44回総会(6/17) 総会議事に出席します
- 記念講演に参加します ()人
- 懇親会に参加します ()人
- (地区) (お名前)

※ すでにお返事をいただいている場合はご容赦ください。